

大好評連載中!!
第三回目にして
まさかの大破……

撮影=武井企画 文=鈴木俊男
取材協力=G-SONIC http://www.g-sonic.jp/
SPEED JAPAN http://www.speedjapan.co.jp/
(有) RS FINE (株) 武井企画
公式ブログ: http://www.g-sonic.jp/

190Eレースプロジェクト セパンへの道 VOL.3

M.Benz 190E 2.3-16
Race Project
Road to SEPANG!!

オトナの男たちが、大人気ないまでに190 Eを遊びつくす! 目指すは日本一の190 E! 2009年2月にマレーシアで行なわれる24時間耐久レースを目標に、ベンツ190 E 2.3-16 モディファイ計画バク進中!?

今月は特に
オトナゲない
オイラたち!



福島県エビスサーキットで行なわれた6時間耐久レース。参戦を決めた理由はダイレクトトイギニッシュョンシステムとオリジナルエアロパーツの効果をテストするため……のはずだったが、ダイレクトトイギニッシュョンはパーツが壊れるのに予想以上の時間がかかり、エアロパーツは職人気質の凝り性から完成が遅れ、ともにレースには間に合わず。結果、オトナゲない大人たちがオトナゲなく遊ぶためだけのレース参戦とあいなった。

大破した190Eの前で 高笑いするメンバー達

「目指せ日本一の190E!」を実現するため、着々とマシンのモディファイを進める個性派メンバー4人。

6点式ワンオフロールバーを装着

して乗り込んだのは、福島県エビスサーキットの6時間耐久レースだ。

意気揚々と挑んだレース。メンバーチームの顔から笑みが消えたのは、予選がスタートして30分が経過したころだった。

「ボス松原が……S字で……」もたらされた情報に、ピット内は一瞬にして緊張に包まれた。

——その2周前のこと。ステアリングを握るボス松原は順調にタイムアタックを重ねていた。「そろそろドライバーチェンジかな」

そう考え、指示を仰ぐために車載無線のスイッチに手を伸ばす。そこで無線の電源が切れていることに気がついた。ひとつしかない電源の取り出し口が、ラップモニターに使われていたためだった。

「ま、しょうがないか。じゃ、もう一周だけアタックしちゃうか!」

1コーナーをクリアし、差し掛かったのはタイトなS字コーナーだ。下りのためにかなりスピードが高いリスクが伴うものの、タイムを縮めるには絶好のポイントだ。

勇気を試されるコーナーは攻めるには高いリスクが伴うものの、タイムを縮めるには絶好のポイントだ。

い、果敢にアクセルを踏み込むボス松原。

悲劇はそこで起きた。

オーバースピードのために縁石に向かって暴走した左リアタイヤ。前日の雨でぬかるんだダートに足をとられ、

目指せ日本一!
個性派揃いの
強力メンバー!!



ボス松原



武井寛史(愛称・チャ武)

車両を提供してくれたG-SONICのオーナー。プロジェクトではドライバーも務める。国産外車を問わずクルマをこよなく愛する人。



男臭いレースに潤いを与えてくれるチームの華G-SONICエンジェル。今後、取材にもちょくちょく登場する予定。彼女たちの詳細は、http://www.g-sonic.jp/にて!



スピードジャパン小澤



バーツ輸入商社スピードジャパンの社長。ユーザーから絶大な信頼を受ける豊富なバーツ知識は、当プロジェクトにおいても必要不可欠だ。

しかし、悲劇は起こった……

オトナゲなくアクセルを踏み込んだ結果、変わり果てた姿となった我らが190E。フレームが修復不可能なほどに歪むクラッシュだったが、ドライバーがかすり傷さえ負わずに済んだのはさすがベンツ。ベンツの持つ剛性の高さが、期せずして証明された形となった。



無残な姿で運ばれていく我が190E……。セパンはどうなる!?



マシンを大破させた責任を感じ、チャ武とボス松原は涙にくれた的なポーズを取りながら、小声で次のベースカー探しの相談中。



ともかくにも 次のベースカーを 探さねばならない!

新たなベースカー探しに着手したメンバーたち。果たしてセパン耐久レースに間に合うのか!? 予定調和のまったくない190Eプロジェクト! 結末予測は不可能だ!

NEXT チャレンジ!

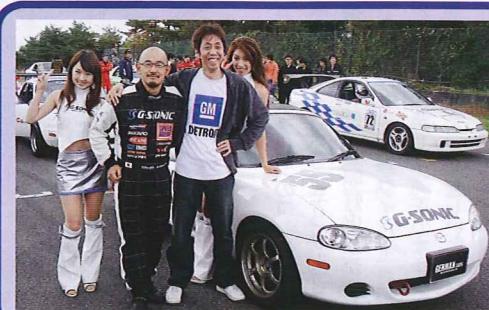
マシンは一瞬にしてコントロールを失ってしまう。プロドライバーでも対処の難しい局面だ。コースサイドの土手に左フロントを激しくヒットさせ、スピンドラムながらコースを横断し、今度は反対側の土手にリア部分を激突させた。破片をまきちらし、ようやく停止する190E。マシンは大破。コース内には赤旗が振られ、予選は中断となった。「あの「コーナー、110キロくらいのスピードが出てるんじゃないかな? ……ちょっとヤバいやぜ」

不安を口にしながら真っ青な顔でかけつけるチャ武らメンバーたち。クラッシュ現場で目にしたのは、タンカの上に横たわる意識不明のボス松原! ……なんてことはまるでなく「さすがベンツ! この剛性の高さ! こんなに激しくクラッシュしたのに、身体なんともないし! っていうか、クラッシュの4日前

ボス松原に呆れ果てた……なんてこともやつぱりなく「スピンドラムは限界を知ることができないから絶対に上達しないんだよね! スピードできるのは才能のひとつ!」と、大破したマシンを前に高らかに笑い合う。それどころか、マシンの回収作業も済んでいないというのに、

「ベンツベンツ! 別のベンツ探さなきや! 使えるバーツは全部移植してさ!」などと、早くも新たなマシンの物色を開始するのだった。

目指すのは日本一の190E……のはずだけれど、今のところ日本一の懲りない人々という感じです。次回も乞うご期待!



取材ウラ話

「G-SONIC」のステッカーが貼られた白いロードスター。実はこのマシン、ボス松原の「自分だけが楽しんじゃ悪いしね」という考えから、自身がオーナーを勤める会社の社員たちに楽しんでもらおうと用意したレース車両。福利厚生がレース車両とレース参戦だなんて、ちょっとうらやましい(?)会社です。